

# あおぞら

発行：愛知県被災者支援センター  
住所：名古屋市中区三の丸 3-2-1  
愛知県東大手庁舎 1階  
TEL：052-954-6722  
FAX：052-954-6993  
開館：月～金 10～17時



## 「第2回ふれあいひろば小牧」の開催報告

12月8日(日)8世帯をお迎えして、「ふれあいひろば小牧」を開催することができました。申込みは10世帯あったのですが、都合により2世帯の方々が欠席となり、残念でした。

今回で2回目の集まりは、小牧市のたくさんのボランティアのお手伝いに助けられました。頼もしい高校生の託児ボランティア、傾聴ボランティア、婦人奉仕団、生協の方々等と、愛知県被災者支援センター、小牧市社会福祉協議会、コープあいちの協力により、楽しい時間を過ごさせていただきました。特に前日からちらし寿司の準備をしていただいた方には、2日間お世話になりました。

当日、10時半過ぎから自己紹介・近況報告をしていたら、いつの間にか昼食時間になり、その後もデザートとお茶で、あっという間に帰りの時間がきてしまった感じでした。話が尽きることなく続き、子育ての話から政治の話まで、現在進行形の話から昔話まで、いろいろな話が飛び出してきました。



夕方、名残惜しく、次回の再会を誓い、散会となりました。

後日反省会を開き、次回の計画を立てる予定です。また「ふれあいひろば小牧」の案内を見かけたら、今回来られなかった方々もぜひおしゃべりに来て下さいね。

(湊 房子 小牧市 在住)



## パパ・ママ・キッズ☆ゲンキ・すまいる・プロジェクト 冬 in 飛島村

「パパ・ママ・キッズ☆ゲンキ・すまいる・プロジェクト 冬 in 飛島村」に、名古屋に住む家族とともに参加しました。当日は多くの催し物があり、私と子どもは「室内あそび」、「おしゃべり cafe」、「クリスマス・ファミリー・コンサート」に参加しました。

「室内あそび」では、大学生のボランティアの皆さんが、「鬼ごっこ」や「だるまさんが転んだ」などで一緒に走り回ってくれて、子ども達は大喜びでした。その間、私は一人で「おしゃべり cafe」に参加して、ゆっくり話すことができました。

「クリスマス・ファミリー・コンサート」では、プロのオペラ歌手の方々の素晴らしい歌声を目の前で聴けて、感動しました。子どもは今でも、その時に皆で歌った曲を口ずさんでいます。

昼食に頂いた料理は、まるでパーティー料理のような、たくさんの品揃え。バイキング形式で子どもも喜んで取っていました。本場中国の餃子もあり、タレをつけなくても美味しく食べられ、皮がもちもちで、日本の餃子との違いに驚きました。「ホッキご飯」は初めて食べましたが、いいダシが出ていて美味しかったです。クリスマスらしいお菓子もあり、コーヒーもありで、お腹も心もいっぱいになりました。

帰りには、サンタさんからプレゼントまで頂きました。親子共々、楽しい 1 日を過ごすことができました。

今回特に印象に残ったのは、「おしゃべり

cafe」です。初めて会う人に話しかけるのが苦手な私ですが、小さな勇気を出して声をかけてみると、温かく丁寧に応えてくれました。色々な情報を得られたことありますが、それ以上に、人との繋がりを実感できたことが嬉しかったです。

盛りだくさんの企画・運営をして下さった皆さんに、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

(山本 健 東京 在住)

この度は、「パパ・ママ・キッズ☆ゲンキ・すまいる・プロジェクト！」に参加させていただきありがとうございました。

当日は、私たち人権擁護委員と他地区、又飛島村の方々と共に、昼食づくりのボランティアとして参加しました。私は、その中のメニューのひとつ「本場中国の水餃子」づくりのお手伝いをさせていただきました。愛知県被災者支援センターの戸村さんより、餃子を作るにあたっての細かい説明をいただきました。

最初は私も主婦の端くれですし、なんとかできると思っていたのですが… 中国出身の「福一さん」と云う方が「本場中国の水餃子」を「皆さんに食べてもらいたい！」との心温まるお話でした。まず我が家で早朝より、餃子の中味・あんづくりの下準備を皆でしました。1 時間後、飛島村調理室へ移動し、次の作業のキャベツの



みじん切りからスタートしました。調理室の中では、私たち以外にも、おにぎり、ぶた汁チーム、混ぜご飯、オードブルチームの方たちがお部屋いっぱいでした。その顔からあふれるほどの笑顔で、一つひとつ丁寧に作っておられました。私たちチームも、餃子の皮づくりに入りました。この皮づくりが大変でした。「福一さん」のOK!を出していただかないと、次のバージョンへ進むことができません。「人に喜んでいただく為には、妥協はダメなんだ」とその時思いました。そして、あんを皮で包む作業です。これも苦勞でした。「福一さん」がにじみ出る汗を拭きながら、皆のテーブルを回っては厳しく、時には優しく教えてくださいました。当初教えていただいていた、「一つでも破れていたら、それを食べた人が『なーんだ、まずいじゃないか!』と云うだろう。だから破らないように作ってほしい!」。その事を思いながら、皆さん一生懸命頑張りました。最後は熱湯の中で茹でる工程。どれも「福一さん」の指示される通り、OKが出ませんと仕上がって参りません。他の料理がもうテーブルいっぱいに並び、あとは、「中国水餃子」が並べば完成です。ようやく熱々の餃子が出来上がりまして、料理をどんどん各部屋に運びました。

皆さんでき立ての餃子（初めての味だと思います）を食べられて、「美味しい!美味しいよ!」と声が出てまいりました。そして皆さんから次々と拍手となりました。「福一さん」に、「皆んな笑顔になっていただいて良かったですね!」



と言いますと、とても照れたような、満面の笑顔でした。そのあと、「福一さん」は、日本語が苦手な奥様に伝えておられ、たいへん夫婦で喜んでおられました。

私はこの餃子づくりのお手伝いの中から、たくさん得たものがありました。まず、「福一さん」は、被災されながらも、人が喜んでくれることを、自分ができる「餃子づくり」を企画してくださったこと。「人を大切にする心・人を思う心」、それに「福一さんのお心」を大切に、ボランティアの方たちが一つになって、その事に向かえたこと（皆んなの顔が笑顔でしたよ）。そして、餃子をいただかれた方が、「福一さん」を称えられていたこと。「福一さん」も日々の生活は、厳しいものがあると思いますが、この度の餃子づくりのように、みんなで向かえば「必ず笑顔になれる」と、思われたことでしょう。

たくさん体験をさせていただき、どの方たちからも、「参加して本当に良かった。嬉しかった!」と言ってもらいました。午後からは、コンサートで、多くの方と素晴らしい歌声に酔いしれました。最後に、村長さんより後日お話する機会があり、「皆さん無事に終えられ、本当に良かったですね」とのお言葉をいただきました。本当にお世話になりました。

（飛島村 人権擁護委員 橋本 千草）

12月14日のクリスマスシーズンに開催された、夏に引き続き第二回目、冬の「パパ・ママ・キッズ☆ゲンキ・すまいる・プロジェクト」に参加させて頂きました。

会場は、色々とお世話になっている飛島村の中央公民館です。とても立派な建物で、近くに温水プールもあるとの事で楽しみにしていた小

## <パパ・ママ・キッズ☆ゲンキ・すまいる・プロジェクト>

学生の娘は、ボランティアの方に連れられてプールに泳ぎに行きました。私は、午前中はリラクゼーションコーナーでゆっくり、午後からは声楽家の竹内さんとデニス夫妻のコンサートを楽しみにしていました。

早速リラクゼーションコーナーに行くと、アロマオイルとハーブティーの良い香りに迎えられ、もう施術を受けている方がいらっしやっただので、待っている間ハーブティーを頂きました。アロマハンドトリートメントを施術していた鈴木さんと、整体を施術していた松山さんは交流会で知り合った方々です。

アロマハンドトリートメントは、本当は1人45分位の時間が必要らしいのですが、今回はイベント用に短縮版で1人15分位でして頂きました。始めてマッサージを受けたのですが、まず温められたオイルの良い香りと、オイルを塗ってもらうだけでリラックスできる不思議な感覚、まったく力を入れずに優しくマッサージして頂いている内に、体が温まってきます。

鈴木さんと久しぶりにお会いした事もあり、色々お話ししながらのあっという間の15分間でした。施術を受ける人がより良い状態で受けられる様にと、沢山のタオルやバックミュージックまで用意された鈴木さんの気遣いが感じられる、素敵なハンドマッサージでした。

整体の松山さんもマッサージ用の台を用意して頂いて、15分位ですが本格的な整体を受ける事ができました。以前に施術して頂いた事があるのですが、毎回疲れている所を的確にほぐしてもらい、予防の体操まで教えて下さいます。施術を受けている人の疲れを取ってあげた

い、という気持ちが伝わる整体です。

リラクゼーションコーナーのハンドトリートメントと整体の間に、おしゃべり cafe の場が設けられていて、リラクゼーションの順番待ちの方々などでとても賑わっていました。

交流会等があると、避難者という立場で受け身の事が多いのですが、今回のリラクゼーションコーナーやコンサートは、避難者の方々が実施していました。私も今、ハローワークの求職者支援制度という制度を利用して、WEBデザインの学校に通っています。新しい事を始めるのには勇気が要りますが、皆さんの前向きな姿を見て、何か一步踏み出すきっかけになったと思います。そして「パパ・ママ・キッズ☆ゲンキ・すまいる・プロジェクト」は、癒し・遊びの企画を通して、大事なことを学ばせて頂いたと思います。

「ゲンキ・すまいる・プロジェクト」の準備、実行に携わって下さった方々に、感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。

(三浦 みゆき 名古屋市天白区 在住)

2013年12月14日(土)に日頃お米やお芋掘りなどでお世話になっている飛島村で、チェルノブイリの慰問コンサートや東日本大震災時もチャリティコンサートをされている友人夫妻の声楽家、高谷公子さんとデニス・ビシュニャさんと一緒にクリスマスコンサートをさせて頂きました。

舞台裏を明かせば、私のソロの曲以外は全て当日のみのピアニストとの合わせで、よくぞ大



きな事故もなく演奏できたと、コンサート終了後はホッとしました。10:00に開始したりハーサルも、開場時間ぎりぎりまで打ち合わせし、ボランティアのみなさんが作って下さったお料理も急いでかき込み。開演5分前にドレスに着替えると言うドタバタっぷり！（お料理は終演後に改めて味わいながら戴きました）事前に台本を書いて進行も決めていたのですが、リハーサルを重ねる中で、違うアイディアも湧いて来て急遽変更する事もありました。

クリスマスソング～ジブリ～本格的なクラシック～ロシア音楽まで、盛りだくさんのプログラムを準備しました。ジブリ作品のトトロのさんぽでは、歌いたいお子さんに舞台上がってもらいましたが、子どもたちも楽しく元気に歌ってくれ、またそのお母さんたちが我が子を写真に収めようと舞台前まで来て下さり、子どもも親も喜んでもらえてよかったなあと思いました。

ウクライナ出身のデニスさんからの、ウクライナと福島のお話も、覚えてたの日本語でたどたどしいながらも頑張って話して下さる姿に感動し、またチェルノブイリを経験した方からの「頑張りましたよ！」と言う言葉には、たくさんの勇気を戴きました。

ロシア音楽のカリンカでは公子さんの即席レッスン後に全員合唱をしました。歌う事はストレス発散に最適ですし、みんなで歌う事で一体感を感じ



じられ、その場に大きなエネルギーが生まれたように感じました。

ピアニストの藤田理粧さんも、震災以降何かしたいとずっと考えて下さっており、今回のコンサートを快く引き受けてくれました。

飛島村の皆様にも本当に助けて頂きました。素晴らしいホールで、避難者の皆様と、飛島村の皆様と音楽を通して交流できたことに、感謝の気持ちでいっぱいです。

午前中の癒しやおしゃべりカフェのプログラムも大盛況だったようです。これからも皆で励まし合い、これからどんな道を辿っていけばいいのか、少しずつ答えを探していけるよう活動していけたら、こんなに嬉しい事はありません。

（竹内 支保子 岡崎市 在住）



<パパ・ママ・キッズ☆ゲンキ・すまいる・プロジェクト>

飛島村は行ったことがなかったので、とても楽しかったです。とてもきれいな所でした。

私は午前中、プールで遊びました。中学になってから、数えるほどしか行ってないので、久びさに泳ぐことができました。

小さい子と一緒に、スライダーをしたり、もぐったり、本当に楽しかったです。

でもやっぱり小さい子のお世話は大変でした。親はすごいです。あんなに大変な小さい子のお世話を毎日していると思うと、とっても大変なことだなと思いました。

お昼ごはん食べた水ギョーザやピザなど、どれもおいしくて最高でした！

プールもごはんもコンサートもカードも最高でしたが、なによりも人の優しさが最高でした。

(小野 優花 岡崎市 在住)

飛島村へはじめて行き、楽しませてもらいました。

車を降りた後とてもつめたい風が体にあたり寒かったから、海が近いと、もっと岡崎よりもつめたい風がふいているんだと実感しました。飛島村

でプールに入ったり、おいしいお昼を食べたりと楽しい1日でした。知らない人たちがたくさんいて、小さい子のお世話係であった私もたくさん友達ができて、私まで“あそんでもらうがわ”にいて、小さい頃にもどった感じでとても楽しかったです。

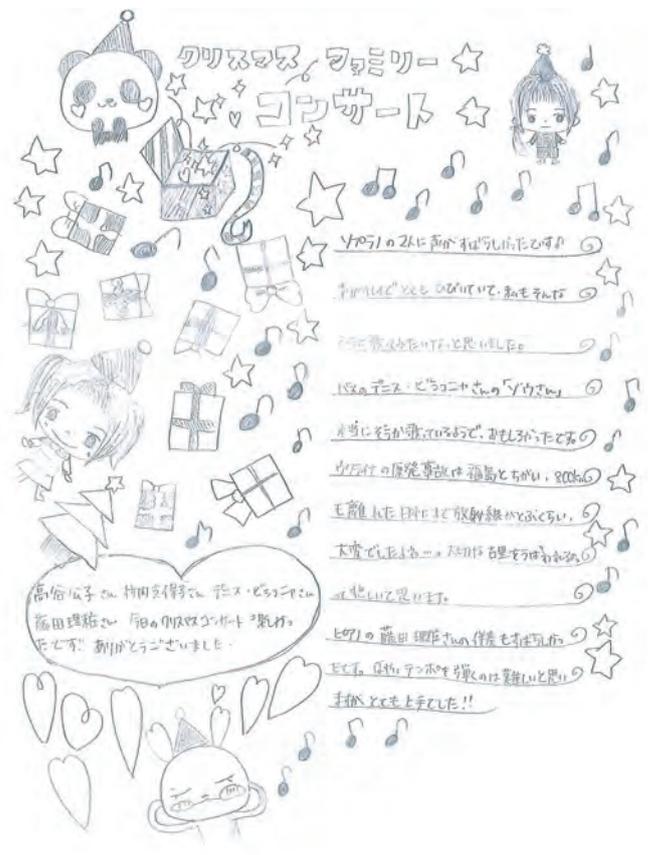
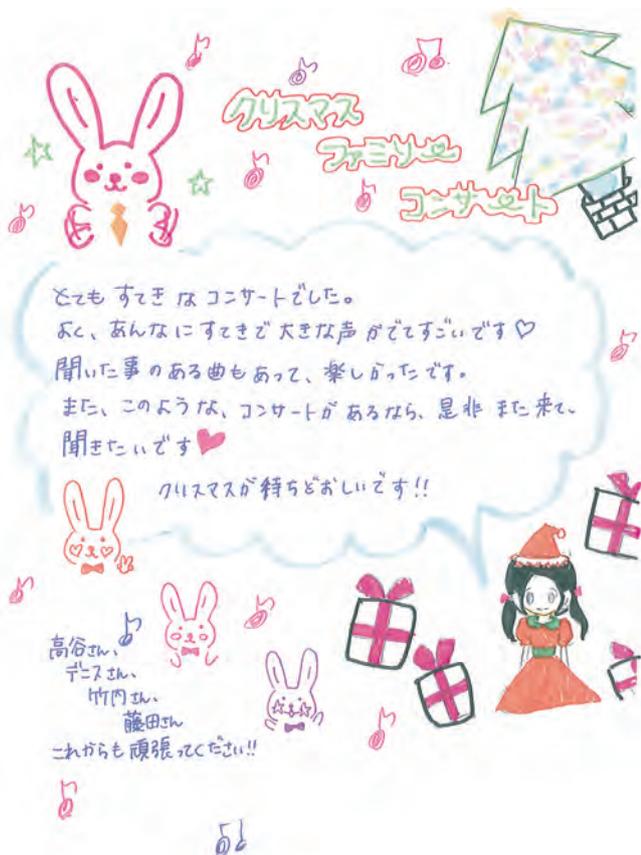
また、お昼ごはんもとてもおいしく、何回もおかわりしてしまいました。特に、水ギョーザがおいしかったです。味が濃くなく、うすくなく。モチツとした食感で最高でした。

勉強ばかりの、毎日でいつも気分がスッキリしていなかったのに、飛島村へ行ったらのびのびと久しぶりに走りまわれたと思います。

最後に、飛島村の子どもたちから、クリスマスカードをもらえてとても嬉しかったです。この嬉しさは、チェルノブイリ原発事故後にチェルノブイリの子どもたちに、クリスマスの時支援としてクリスマスカードをあげたり、もらったりと同じだとわかりました。

だから、これからも小さなことからでも、ボランティア活動を続けたいです。

(小野 彩花 岡崎市 在住)



## 第14回子育てつどいの広場

今年最後の「第14回子育てのつどいの広場 IN 瑞穂区（ボラみみより情報ステーション）」は、12月15日（日）に開催されました。窓の外では冷たい風が吹き時折雨も降っていましたが、室内では子どもたちが元気いっぱい走り回り、笑い声のたえない賑やかな一日となりました。

参加されたご家族は全部で6組。初参加の方もいらして、新たな出会いもありとてもうれしく感じました。

お昼をいただいた後は親御さんたちで午後の“まったりティータイム”があり、ボランティアが子どもたちと遊んでいて下さるので、ゆっくりとくつろぎながら、暖かい紅茶やコーヒーや昆布茶など、数種類あるものの中からセルフサービスで、皆さん思い思いのものを美味しく

### ~~~~~ お茶っこサロンなごや “クリスマス会”

12月15日（日）のお茶っこサロンは、天白区で“クリスマス会”。小一の娘と2人で参加しました。お茶っこサロンももう何回か参加させていただいておりますが、お茶っこサロンのすごいところは、約2時間ある時間の中で手作り品を一品完成できるようになっているところです。今回もこれまたスタッフの方の素晴らしいアイデアで、真ん中をくり抜いた紙皿で作るクリスマスリースでした。本当にかわいくでき、大人気で、材料はアツという間に皆に行き渡りました。

お茶っこサロンといえば、ゆる～い感じで避難者の方たちが顔を合せ、普段は話せないことも避難者同士なら話すことができるという、とっても安心できる場所、という印象です。しかし今回はその想像を覆すパフォーマンスやプレゼントの品の数々に、目がまん丸になりました。学生ボランティアのお兄さんお姉さんは仮装や飾り付けをして歌を歌ってくれるし、生演奏のギターに合わせて“アブラハムの子”、“赤鼻のトナカイ”、“ジングルベル”、“あわてんぼうのサンタクロース”を会場全員で歌いました。そして、パフォーマーの方によるバルーンアートの演出は、次から次へと繰り広げられ、作られた動物やキャラクターやお花などの作品は、子どもたちに万遍なく行き渡りました。そして中でも大作は、大人も参加の勝ち抜きジャンケンとなり、正直大人たちの方が作品欲しさ

いただき、雑談に花を添えました。

話題は子育てのことはもちろん、子どもの教育についてや、今住んでいるところはどんな雰囲気か？など、それぞれ気になっている事を話しながら情報交換をしたりと、普段の日常生活では解消できない、モヤモヤが少しスッキリとして、また明日への活力へと繋がりました事、とてもありがたく感じております。

第16回は2月16日（日）10時30分～14時です。保護者の方のお昼のお食事はご用意して下さいます。

最寄駅の妙音通駅下車して徒歩2分くらいなので小さなお子さん連れには便利な場所にあります。ご興味のおありの方はぜひご参加ください。

（ペンネーム ぴよりん）

~~~~~  
から、ジャンケンに目が燃えていたことを、パフォーマーの方がすかさず突っ込み、反省する大人たちでした（笑）。最後は、むっちゃ大きなバルーンを膨らまし、なんとパフォーマーのお兄さんがその中に入ってしまった。バルーンの中から顔だけを出して、会場中ピョンピョン跳ねて、子どもたちはキャッとかわアア、という大歓声で興奮しまくりでした。

私は被災者登録をして、1年となりましたが、3年目を迎え悩みは減るどころか逆に増え続けています。母子避難で、二重家賃生活、先の見えない家族バラバラ生活に平穏ではありません。今年1年、東日本大震災被災者支援ボランティアセンターなごや、愛知県被災者支援センター、およびそれらを介してつながっている避難者の皆様、お世話になりました。それぞれが持ち場で伝える、行動する、をやっておられたり、まだ心の傷が癒えない生活を送られていたり、皆様へ尊敬の眼差しでございます。1年お疲れさまでした。

2月の大交流会では、今まで話したことの無い方もできたら、全員一人ひとりのご苦勞と今を伺いたいです。また1月19日（日）に、南区の日本ガイシフォーラムの和室で、お茶っこサロンがありますので、お淑やかに（できるかな～）、ほっこり皆さんと過ごせることを楽しみにしています。

（三原 香奈子 名古屋市緑区 在住）

## 「子どもたちを放射能から守ろう交流会」に参加してきました

2013年12月25日。クリスマスモード一色のこの日に、真宗大谷派名古屋別院で開催された「子どもたちを放射能から守ろう交流会」に参加してきました。

この時ちょうど福島県二本松市より、10組の親子が保養でこの名古屋別院に来ていました。交流会は保養組、避難組、僧侶の方々が混ざり、各班が小人数になるように3班にわかれて行われました。

私が参加した班には二本松のママが3名、避難者が3名、僧侶の方が6名の12名参加していました。簡単に1人ずつ自己紹介をしてから、司会者の方が「震災の苦悩、苦しみ」というテーマを下さり、被災者として二本松のママと避難者が交互に体験や想いを語りました。今現在福島に残っている方と、既に自主避難をしている私達がちゃんと交流できるのか、始めは不安でした。私の中では震災から2年半以上が過ぎて、それぞれの立場があること、それぞれの選択を尊重しようと考えられるようになっていましたが、福島ママの話を聞く度に涙が込み上げました。

ある福島ママからは、震災当時は物がなくなるという恐怖からパニックになり、原発事故が起きた事も知らずに行列を作り、子どもに被曝させてしまったと言う後悔が語られました。現在は、公園遊びをさせるために、わざわざ高速を車で飛ばして県外の公園まで行くこと。砂遊びもやりたい盛りのお子さんに、家の近くではやってはいけないと我慢させることへの限界と、守りきれないのかなと言う母としての限界。学校給食に福島県産の食材が使われるようになって、お弁当を持たせているが、クラスに1人になるとやめてしまう人も出てきて孤独との闘いがあること。子どもに温かい給食を食べさせられない事も悩みと言うお

話もありました。

避難者として私からは、母子避難をしていた1年目の不安な気持ち。家族で避難できた後の2年目は、自分たちだけ避難してしまったとの罪悪感との闘い。3年目の現在は生活の立て直しとこれからの生き方について話させて頂きました。

やはり福島に残っている方と、避難した側では問題が全く違うことが浮彫りになりました。その両者を司会の僧侶の方がうまく繋いで下さり、険悪なムードにはならずお互いの立場を理解しようと言う姿勢が見られたように思います。一市民の力、輪はすごい！と言うことに、震災があったからこそ気付けたこと。これは今福島に残っているママにも、避難者にも共通の想いでした。与えてもらうのが当たり前ではなく、これからは自分にできる事は自分の足下からやっていくと言うお話でまとめとなりました。

会の最後に、各僧侶の方の感想も聞くことができました。原発の話をするのは本性がむき出しになるので覚悟がいる。基本的には原発反対だが、正直被災者と自分との間に温度差を感じた。福島に行ってみようと思った。自分の認識度の低さ、ニュースになっていないと遠くの出来事だったが、自分に全く関係ない問題ではないと改めて思った、等の感想を戴きました。

個人的には、認識の低かった方の心にも響いた今回の交流会に参加して、伝えていく事の大切さにも改めて気付きました。

震災からもうすぐ3年ですが、新たな問題や悩みがまだまだ出てくると感じました。どのように向き合っていけばいいか、どのように伝えていけばいいか、これからが知恵の出どころと感じた交流会でした。

(竹内 支保子 岡崎市 在住)



## これから… と「あおぞら」

愛知県内の知人友人からの年賀状が一昨年より少し増えたのに対して、福島県内から届く便りが心なしか少なくなったような気がした新春です。

私たち家族が福島市から自主避難して、早 2 年が過ぎようとしています。震災後 1 年間福島市で生活してしまったことは、子どもたちにどのような影響があるのか不安を払拭出来ぬまま、歳月は過ぎ去るばかりでした。加えてさらに「すべての子どもの平等な未来」を描きにくい方向に、日本が突き進んでいるように感じられない、今日この頃です。

ボランティア編集委員として、「あおぞら」の作成に時々携わって約 1 年半。愛知県被災者支援センター主催の様々なイベントにも、お手伝いメンバーとして参加してきました。活動を行うときの私の基本軸は、「これからをどう生きるか」という「問い」の答えを見つけることです。活動を通して、いろいろな人に出会いたくさんの刺激を受けました。避難していなければ絶対に交わることの無い方との接点もあったであろうと感じます。

しかし、先の「問い」に対する明確な答えは未だ出ていません。「あおぞら」の原稿を書きながらや講演会を聴きながらもいろいろ考えるのですが、すっきりと気持ちが晴れることはありません。

「生きる」ための「衣食住」は必須事項ですので、まずは働かなくてはなりません。働いて備蓄を求めると「問い」を考える時間が足りません。

原発の在り方や新しいエネルギーの利用方法、本当の豊かさや人間らしさについて再考する転換期であったはずの震災経験が、巧みな力によって内側からじわじわと震災前の生活以上の豊かさを求める脳ミソで固められていきま

す。何のための避難であったのか、私たちの自主避難は自爆テロであったのかと自嘲気味につぶやきながら、そっと自責の念に駆られることもあります。

原発が爆発したあの日、ある人に言われました。「理科の先生が集まって、何か話し合えば良いアイデア出るでしょ」。まだ事態の深刻さが全く表面化していない直後の理科準備室に顔を出した他科の先生の発言です。理科教員の私たちも思っていました。「科学者が何とかしてくれる。」と。

自然の大きな力に敬意も払わず、科学を技術とすりかえた学問として発展させてきたなどとおこがましい考えを持ちながらも、自分のこととしては考えず、他人任せである私たちの子どもには未来はあるのでしょうか。

科学者任せと同様に、世の中の事象に対して「なんとなく」傍観者であったあの日よりも前の自分に戻らぬよう「地球上の生活者」として生き、次世代にバトンを渡さねばなりません。

震災後 3 年が過ぎようとしている今も、「あおぞら」が私にとって「これから」を考えて行く拠り所であり、他の編集委員の方々とふれあいがなんともいえない癒しとなっていることも紛れも無い事実です。震災を通してだからこそできる出会いがこれからもあると、とてもうれしいです。もしも編集活動にご興味があれば、ご一報くだされば幸いです。またご意見やご指導などございましたらお伝えください。

2 月 1 日の交流会では、多くの方と多くの語らいができることを願います。皆様にとっての「問い」とは何でしょうか。

(あおぞら編集委員 小野 佳奈)

## アースデイいわき 2014 in モリコロパーク春祭り

2011.3.11 東日本大震災発生。そして、福島第一原発事故。

原発から 35km 離れたいわき市に拠点を構えていた私は、当時 1 歳 4 カ月だった我が子を守りたいという一心で 1 カ月後、自分の判断で愛知県に自主避難をしてきました。

安息の地を求めたつもりでしたが、移住するのか？ 福島に帰るのか？ 故郷を離れたことに負い目を感じ、葛藤に苦しむ日々を過ごしていました。そんな、モヤモヤを抱えて過ごしていたある日、いわき市で一緒に活動をしていた仲間から講演の依頼を頂きました。

私が震災当時まで取り組んでいた子供も大人も巻き込んだ山奥での自然体験活動「インディアン村づくり」の話を聞きたいという内容でした。当時は派手に活動していたとはいえ、今は引き籠りのように身を潜めている私がいっぱい何を話せばよいのか？

依頼に応える自信もなく、お断りしたかったのですが、戸惑いながらも帰省し、会へ出席しました。

「おかえり」

何を迷っていたのだろうかと思うくらい、故郷のみんなが温かく迎えてくれました。

無事に講演会はお開きになりましたが、打ち上げの席でこう打ち明けました。

「今日は偉そうに皆さんの前でお話させていただきましたが、今、私は引き籠りです。」

故郷から逃げたことに負い目を感じ、新天地で



一歩を踏み出せていないことを正直に話しました。

「知ってる！だから呼んだんだよ！」

新天地の愛知で凹んでいることを知った仲間が、新しい一歩のきっかけになればと、この会を企画して呼んでくれたことを、その時初めて知りました。

さらに仲間が続けます。

「おまえが帰ってくる場所は俺たちが守っておくから心配するな！」

「何よりもあたたかく迎えてくれた愛知の人たちにきちんと恩返ししてから帰ってこい！」

こうして、いわきの仲間に背中を押してもらい、愛知に送りだしてもらいました。

今までは自分や家族のことばかりを中心に考えていたのかもしれない。

そう反省しながら周りに目を配ると、私と同じように自主避難をしたことで悩んでいる人が多いことも知りました。



震災から 3 年、未だ愛知県には約 1,200 人の方が県外避難をしています。

負い目なんか感じている場合じゃない！行動しなければ！

まずは震災で中止のままにしているインディアン村主催イベント「アースデイいわき」を名古屋で復活してみよう！

そう思い、企画したのが「アースデイいわき in なごや 2013」。その日から毎日本気で動きまわり、会う人すべてに思いを伝えていきました。徐々に共感してくれる仲間が増え、昨年 3 月、イベントの聖地「久屋広場」で復活の狼煙をあげることができました。

開催当日、会場のステージに立った瞬間、今まで見たこともない景色が目の前に広がっていました！

あの時、背中を押してくれたいわきの仲間も駆けつけてくれていました。

知り合いも頼る人さえもいなかった愛知にもたくさんの仲間ができていました。

手弁当でボランティアに駆けつけてくれた人たち。感謝しても感謝しきれません。

壁を作っていたのは自分自身だったことに気付かせてもらった瞬間でした。

## ■アースデイいわき 2014 開催に向けて

今年の開催場所をどこにするか？愛・地球博記念公園を使えるチャンスをいただいたものの、前回開催した久屋広場の魅力もあり、迷っていた時、「モリコロパークは不便な場所だし人が集めにくいしやめた方が良い！」

誰かが私にアドバイスしてくれました。

その瞬間、「愛・地球博記念公園」でやることを決意しました！

昨年の秋、イベント出演したこともきっかけにはなっていたのですが、聞けば、愛・地球博開催以来、その理念や精神を継承し、会場を存



続するために、地元の皆さんが大変な努力をされているということを知りました。イベント開催の度に毎回、知恵を絞って悩んでいるということも知りました。

微力ではあるけど私にも何かお手伝いできるかもしれない！微力は無力ではない！選ばれた場所、与えられた場所をどう活かすかは自分次第です！

もう迷いません！自分自身に壁は作りません！必ず人は集まると信じています。

みんなで一緒に手を繋げば、また新たな違う景色が見えてくると信じています。

今年の「アースデイいわき」はモリコロパークでギネス世界記録に挑戦します！

震災から 3 年、未だ愛知県に避難している人の数 1,200 人という数字を目標に、手と手を繋ぎ、日本の中心、愛知から世界に発信できるようなきっかけづくりに挑戦したいと思っています！

その他、福島の方をゲストに加えたトークセッションや東北の物産展なども開催します。

このイベントが全国の自主避難者の一歩のきっかけとなることを願っております。

## アースデイいわき 2014

in モリコロパーク春祭り

日時：2014 年 3 月 22 日（土）～23 日（日）

10:00～16:30

場所：愛・地球博記念公園（モリコロパーク）  
地球市民交流センター・食の広場  
（アースデイいわき実行委員会 吉田 拓也）

## コミュニティカフェをオープンしました

### 「里まちカフェ めぐみえん」と申します

被災者の皆様、初めましての方もいらっしゃると思います、福島県のいわき市から愛知県の一宮市へ避難移住した松山です。私は 2011.

3. 11 当時、出産予定日を 10 日後に控えた妊婦でした。2011. 3. 15 には浜通りの産婦人科は全て閉鎖になり、知り合いのご紹介により水戸の産婦人科に受け入れして頂き出産、そして二週間後に一宮市へ避難して来ました。愛知県に来て辛く悲しい事もありましたが、被災者支援センターを初めとする支援者の方々と、同じ思いの避難者の方々にお会いして立ち直る事ができました。

まだまだ生活が苦しく、先が見えない生活の中で、私が描いた夢は「避難者でカフェがしたい！食べ物を気にしている避難者への、安心安全の食材提供の場！生活面で避難できずにいる人達に勇気を与えたい！」でした。この思いを、被災者の声を聞いて下さる機会があるたびに、お話ししたりお願いをしていました。そんな時、名古屋市北区の柳原商店街で「特定非営利活動法人 ライフステーション・あいち」の理事長との出会いがありました。私が思っていた「安心安全の食材の提供の場」と同じ構想のカフェを、2013 年 11 月 11 日にオープンするとのこと！

『有史以来、山中や田園地帯などで民家が集まって小集落を成している所で、農業を中心に人情味豊かに助け合い、分かち合いながら生きてきました。しかしながら、ここ最近では各地で都心化が進んだことで、このような暮らしは少なくなり、助け合いや分かち合いの心は薄れ、物質的・経済的な豊さが幸せ！という価値観になってしまい、環境・高齢者・健康などで、さまざまな問題が浮き彫りになってきています。

「里まちカフェ」とは、都心化した街の中で人と人との関われる場となりうる「商店街」で今一度、里の暮らしの豊さを感じていただく事のできる場です。カフェの新しいスタイルです。

メニューは、自家焙煎のコーヒー・自家製シロップドリンクや、手作りパンと焼き菓子・自然栽培野菜（無農薬、無肥料）を使ったランチを提供します。また、店内で自然栽培野菜や添

加物不使用の食品の販売も行っています。

運営者は、高齢者の介護と障害者、ニートの就労支援を行なっている「特定非営利活動法人 ライフステーション・あいち」、自家焙煎のカフェを営んでいる「ギャラリー縁」、自然栽培野菜を作っている「めぐみ園」の 3 社共同経営で、「玄米おむすびの会」の協力を得ています』

こんなカフェを、「一緒に考えて行かないか？」と理事長にお誘いを受け、就職することになりました。私の夢であった「避難者でのカフェ」ではありませんが、まずここを拠点に、「安心安全の食材の提供」や情報の発信が始められるかもしれない。「交流会」に参加しづらい思いをお持ちの避難者の方が、ふらっと立ち寄ってくださるかもしれない。気が向いた時に顔を出せば、いつでも見知った顔がいてくれると思ってもらえれば、最初はささやかな交流でも、いつかはしっかりしたつながりになるかもしれない。そんな一歩になれば、と願っています。

また、カフェの席数は 20 席前後ですが、2 階には 10 畳和室のコミュニティスペースがあります。そこでは対話イベントや講座映画鑑賞なども、随時おこなっていく予定です。被災者支援センターから歩いて行けるので、このコミュニティスペースで、こじんまりした「交流会」の開催も可能でしょう。

もちろん、私は夢を諦めてはいません。「避難者でカフェを開く！」チャンスがある事を信じて、今はプロの運営の仕方を勉強させていただきたいと思っています。

（松山 要 一宮市 在住）

### 里まちカフェ めぐみえん

所在地：

名古屋市北区柳原

4 丁目 2-2

TEL：052-934-7850

（愛知県被災者支援

センターより徒歩 10 分）

営業時間：10:00～18:00

定休日：月曜日定休

